

科研費基盤(S)

「社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」

若者研究会

2019年度第1回研究会報告

1. 研究会基本情報

日時：2020年2月11日（土） 14:00～18:30

場所：AA研マルチメディア会議室（3階304室）

報告者：

- 1) 八塚春名（津田塾大学・講師）
- 2) 田所聖志（秋田大学・准教授）
- 3) 鈴木佑記（国土舘大学・講師）
- 4) 後藤健志（AA研・ジュニアフェロー）
- 5) 生駒美樹（AA研・ジュニアフェロー）
- 6) 岩瀬裕子（首都大学東京・博士課程学生）
- 7) 西川真理（東京大学大学院・特別研究員）
- 8) 田島知之（京都大学・特任助教）
- 9) 上野将敬（大阪大学・助教）
- 10) 貝ヶ石優（大阪大学・博士課程学生）
- 11) 徳山奈帆子（総合研究大学院大学・特別研究員）
- 12) 河合文（AA研・研究機関研究員）
- 13) 川添達朗（AA研・研究機関研究員）

2. 内容

2-1) 若者研究会趣旨説明（川添）

科研費基盤(S)「社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓」の研究目的・概要の紹介、プロジェクトにおける本研究会（若者研究会）の趣旨説明を行った。

2-2) 研究紹介（八塚、田所、鈴木、後藤、生駒、岩瀬、西川、田島、上野、貝ヶ石、徳山）  
参加者全員が、自身の研究紹介をおこない、フロアから質問・コメントを受け付けた。人類学、霊長類学の垣根なく、活発な議論が交わされた。

2-3) ニホンザルのオスにみられる互酬性（川添）

霊長類学における社会行動・社会関係の研究事例として、発表者が行ってきたニホンザルのオスを対象とした互酬性に関する研究を紹介した。また、霊長類学と人類学の両方で使われるが異なる概念を表す用語（例えば、社会行動 social interaction、社会関係 social relationship、社会構造 social structure、母系 matrilineal）について、霊長類学における使用例を概説し、両分野の相互的な理解の促進を図った。

#### 2-4) マレーシア半島部・狩猟採集民の「共住」と「親族関係」(河合)

マレーシアの狩猟採集民を事例として、社会性を形成する基盤と考えられる「共住」と「親族関係」について発表した。発表では、調査対象者の「ジョック」という移動生活を具体例とし、現地の人びとの考え方を理解して分析・考察を進めるという方法を、分析過程を提示することにより、文化人類学的な研究方法を紹介した。